

つくばね

～地域から世界へ、支援と協力の輪を広げよう～



No.69

発行：令和5年7月28日
茨城県青年海外協力隊を育てる会
発行人：小川一成
編集：広報文化委員会
事務局：つくば市高野台3-6 〒305-0074
JICA筑波センター内
TEL 029(838)1111
印刷：合資会社おた

令和5年度通常総会開催

事務局長 小松崎 弘尤

7月9日(日) JICA筑波センターで令和5年度通常総会が開催されました。会議の概要を報告します。

開会の言葉は渡邊副会長。小川会長の挨拶に引き続き、茨城県営業戦略部国際渉外チームリーダー 山口 佳代子 様、JICA筑波センター所長 陸好 絵美子 様、一般社団法人協力隊を育てる会事務局長 大石 精一 様、茨城県国際交流協会事務局長 須能 俊光 様にご挨拶を頂き議事に入りました。

議案第1号 令和4年度事業報告、議案第2号 令和4年度収支決算報告・監査報告があり、質疑なしで承認されました。

議案第3号 令和5年度事業計画、議案第4号 令和5年度収支予算が提案され、質疑なく承認されました。

小川会長より令和5年度事業計画にラオス スタディーツアーが提案され、会長一任で了承されました。

議案第5号 一部役員改選も事務局の説明で質疑はなく、承認されました。

休憩をはさんで筑波センター所長より筑波センター事業や状況について説明がありました。

筑波センターもいろいろな事に挑戦していることがわかりました。

続いて茨城県OV会会長 石森 和磨 様の任国での活動について講演していただきました。任国の現状が私たちにもよく分かりました。(この内容は「つくばね70号」に概要を掲載する予定です)

その後、閉会宣言で全日程を終了しましたが、コロナ感染症が完全には終息していないため、今年も懇親会は中止となりました。

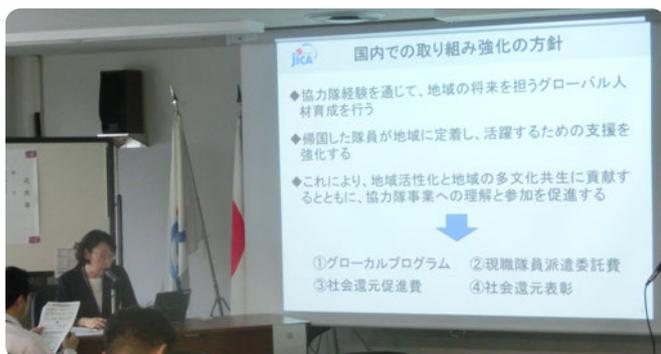
来年こそ皆さんと和やかに歓談できればと思っております。



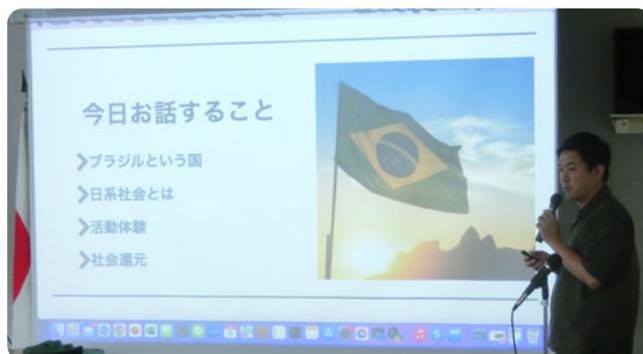
会場のJICA筑波センター



会場風景 (小川会長の挨拶)



JICA筑波の説明をする陸好所長



任国での活動について講演する石森OV会長

令和4年度4次隊の県知事表敬訪問・壮行会

表敬訪問に参加して

監事 鶴町みち子

令和5年3月16日、令和4年度第4次隊の県庁への表敬訪問が行われました。今回は特にコロナ禍で待機中に派遣先が変更になった隊員もおり、やっと世界が動き出したことを感じながらも本人の思いに複雑な気持ちをいただきました。

まず、県庁ロビーで今回派遣の4隊員とJICA筑波の陸好絵美子所長ほか、OV会代表の会田瑞樹さん、「育てる

会」の私たち2理事が合流し、そこで「茨城版小さなハートプロジェクト」について派遣活動中に是非活用してほしいとの説明をいたしました。

会議室に場を移して、横山副知事から隊員に対し任国、職種等について質問があり、それぞれが自信と期待を持って返答していたのが印象的でした。

今回の隊員は、待機期間があり、さらに派遣先の変更等コロナのせいと言いながら延期を重ねての派遣となりました。

隊員を代表して茨城県国際親善大使委嘱状が市川信男隊員へ、また記念品は倉田桃子隊員へ副知事より贈呈されたのち、記念写真を撮影して終了しました。



副知事の質問に答える馬場隊員



活動について説明する古藤隊員



親善大使委嘱状を受け取った市川隊員



記念品を受け取った倉田隊員



各隊員が任国の国旗を掲げて

隊員紹介 (写真左から 敬称略)

古藤 麻子	ガーナ	学校保健
市川 信男	ニカラグア	自動車整備
倉田 桃子	スリランカ	青少年活動
馬場 隼也	ボリビア	病虫害対策

壮行会の様子

会計・運営委員 小松崎千恵子

県知事表敬訪問の後、JICA筑波センターで壮行会が行われました。

育てる会 小川一成会長のあいさつに続き、JICA筑波センター次長 柴田和直様のあいさつ、隊員の自己紹介・研

修員紹介のあと乾杯、任国の話を交えながらひとときを過ごし、記念品贈呈、記念撮影と和やかな雰囲気での時間の経つのも忘れるほどでした。

コロナ前までならテーブルの上にはこれから活動する隊員の任国料理が並んでいるはずですが、コロナ感染症から食事が出来なくなったことはとても寂しいものです。以前のように隊員を送り出すことが出来ることを願っています。



小川会長のあいさつ



スリランカの研修員と懇談中



ガーナの研修員と懇談中



ボリビアの研修員と懇談中



育てる会員とも懇談します



参加者全員で

令和5年度1次隊の県知事表敬訪問・壮行会

表敬訪問同行記

会計・運営委員 小松崎千恵子

7月7日令和5年度1次隊隊員4名の県知事表敬訪問に同行しました。

表敬前に当育てる会の「茨城版小さなハートプロジェクト」を、予算範囲内であれば協力したいと説明、県知事表敬では、県知事が隊員一人ひとりに活動内容などを聞いておられました。



県知事から質問を受ける4隊員



親善大使委嘱状を受け取った船生隊員



各隊員が任国の国旗を掲げて
左から 舟生隊員、鈴木隊員、團野隊員、小関隊員

- ・^{ふにう}舟生健人隊員は「体育」でタンザニアに。課外活動(野球クラブ)に参加する。
- ・團野千鶴隊員は「コミュニティ開発」でベナンに。地域内の生活改善に資する啓発活動を実施する。
- ・鈴木清花隊員は「食用作物・稲作栽培」でザンビアに。稲の試験栽培でザンビアに適した種育成の研究をやる。
- ・小関弘隊員は「コンピュータ技術」でボツワナに。学内のコンピュータネットワーク管理、システム管理、トラブルシューティングの支援を行う。との事。みなさん頑張ってください、陰から応援しています。

元気で任国で活動してくれるよう願っています。

壮行会に参加して

派遣中隊員留守家族・運営委員 大橋 誠

県知事表敬訪問に引き続きJICAつくばセンターに於いて1次隊4名の壮行会が行われ、参加させて頂きました。

私の率直な思いとして先ずは、舟生さん、團野さん、鈴木さん、小関さんに改めて敬意を表します。協力隊員に選ばれ誠におめでとうございます。

各国に配属される皆様方は、研修に於いて昼夜、語学・配属国の文化等を学び、個々の努力が実を結んだ結果なのだ大変誇らしく思います。

参加された4名の表情は、緊張の中にも何かを必ず現地にフィードバックして足跡を刻んでこようとする気概も各人の言葉からひしひしと、且つ、確かに伝わってきました。

その思いが、各国の人々に伝染していけば最高だと私は思います。

そして、日頃からサポートして下さっているJICA関係者の方々、育てる会の皆様へは、現在、娘が派遣中(ベナン)で

現地にて従事している親の立場からも感謝の気持ちでいっぱいです。

派遣される4名は基より、既に派遣中の隊員の方々の努力が実る様、心より応援しております。

くれぐれも怪我や体調には気を付けて“いってらっしゃい!” 2年後、元気に帰国され、再会出来る事を楽しみにしています。

<広報インタビュー>

任国で職種(任務)以外の事で「是非やってみたい!」と思っていることは?

舟生 隊員(タンザニア):有名なザンジバル島でサーフィンやダイビングをやりたい

團野 隊員(ベナン):日本食の紹介と現地料理を覚えて現地の人々に振る舞い「私はこんなにできるようになったよ」とアピールしたい

鈴木 隊員(ザンビア):ドレッドヘアにして現地の民族衣装を着て「アフリカ人」になりたい

小関 隊員(ボツワナ):永らく続けてきた柔道の指導をしたい。講道館に柔道着がたくさん集まっているようなのでそれを「小さなハート」の助けをいただいて現地に贈りたい



久田理事の挨拶でOBとしての激励を受ける4隊員



ベナンへ派遣される隊員と懇談する筆者



参加者全員で

これまで・これからの事業について

■ これまでの事業報告

令和5年	4月8日(土)	令和5年度第1回運営委員会	JICA筑波センター
	4月17日(月)	令和4年度会計監査	結城市
	5月6日(土)	第2回運営委員会	中止
	5月26日(金)	(社)協力隊を育てる会 総会	東京 欠席
	6月3日(土)	第3回運営委員会	中止
	6月6日(火)	令和5年度第1回理事会	JICA筑波センター
	7月1日(土)	第4回運営委員会	JICA筑波センター
	7月7日(金)	令和5年度1次隊4名 県知事表敬訪問・壮行会	県庁・JICA筑波センター
	7月9日(日)	令和5年度通常総会	JICA筑波センター
	7月13日(木)	国際交流協力ネットワーク会議	水戸市 欠席
	7月28日(金)	「つくばね」第69号発行	



■ これからの事業予定

令和5年	8月5日(土)	第5回運営委員会	中止
	9月2日(土)	第6回運営委員会	JICA筑波センター
	9月8日(金)	全国育てる会代表者の会議	東京
	9月 下旬	令和5年度2次隊 県知事表敬訪問・壮行会	県庁・JICA筑波センター
	10月7日(土)	第7回運営委員会	JICA筑波センター
	10月 下旬	令和5年度第2回理事会	JICA筑波センター
	11月4日(土)	第8回運営委員会	JICA筑波センター
	11月 下旬	「つくばね」第70号発行	

事務局だより

会員状況 ()は家族会員

区分	令和5年3月末現在	令和5年6月末現在
個人	65 (2)	64 (2)
団体	18	18
計	83 (2)	82 (2)

編集後記

本号は総会の概要報告をタイムリーに掲載したいために発行がやや遅れましたこと、お詫びいたします。

今回の総会では久しぶりに帰国隊員の活動状況を報告していただきました。

ブラジルに於ける日本語指導についての内容ですが、『日系人が多く暮らしている、日本語はだいたい通じるのでは?』といった程度の知識しか無いのが私達日本人の実態ではないでしょうか。

『言葉が通じることとコミュニケーションが図れるという事は別物なのです』という石森さんのお話を伺って、「目からウロコでした」。

大変参考になるお話でしたのでつくばね70号に概要を寄稿していただく予定です。お楽しみに。